高等部　A組　国語科　略案

日　時：令和５年９月４日（月）
時　間：９：４０～１０：３０
場　所：高等部A組教室
指導者：Ｔ１　片山愛子

１　単元名「お話を楽しもう」

２　本時の目標（対象生徒）
（１）物の名前や動作などの言葉を知り、筆記具で書いたり動作したりすることができる。（知・技）
（２）好きな場面の絵を選んだり、名前を聞いて物を指さしや声を出して選んだりすることができる。（思・判・表等）
（３）言葉の響きや面白さを感じ、挿絵や読み手に注目して話を聞こうとする。（学・人等）

３　単元での生徒の実態

対象生徒	単元での実態（予想される姿・課題等）	期待される主体的に活動する姿
Ａ・Ａ	・周囲の動きが気になり、活動に集中できない。 ・教室を暗くし、絵本の挿絵をテレビで提示するとテレビに視線を向ける様子が見られた。 ・挿絵を見て選ぶよりも、教師の言葉を聞いて声を出して選ぶ様子が見られる。 ・教師の促しを受けるまで自分から行動しない。	☆挿絵（テレビ）を見ながら話を聞こうとする。 ☆動きを表す言葉を聞いて動作をする。 ☆絵（挿絵）を見て選ぶ。 ☆場面に応じて声を出して活動する。

４　主体的に活動するための支援と手立ての工夫

・　周りの人の動きに反応し、話を聞くことに集中できないことが考えられるため、絵本の挿絵はＩＣＴを活用し拡大して提示し、衝立を使用して視覚刺激を減らして学習を進める。
・　具体物の操作を行う場面を設定し、視覚、聴覚、触覚、嗅覚などの感覚刺激を行いながら学習を進めることで、動きや物をイメージできるようにして言葉の理解を促す。
・　動作化する中で気持ちに触れる場面を適宜設定する。
・　選択肢を提示する際には、具体物やカード、学習プリントなどを活用する。
・　仲間と分担をして動作化し、場面によっては声の出し方で状況が変化するように工夫する。
・　仲間と評価し合うなど、かかわりあう場面を随時設ける。

５　本時の展開

時間	活動内容	・指導上の留意点	主体的に活動するための支援と手立て
９：４０	１　始まりの挨拶	・ｉＰａｄとテレビの準備をしておく。 ・声を出して挨拶するよう促す。	
９：４５	２　『まほうのでんしレンジ』を聞く。	・挿絵をテレビで提示する。 ・効果音や歌を取り入れて、楽しい雰囲気作りを行う。	☆衝立で視覚刺激を減らし、読み聞かせに集中できるようにする。 ・具体物に触れたり、においを手掛かりにし物と言葉がつながりイメージできるようにする。
９：５５	３　言葉に合う物を選んだり、動作したりする。	・具体物（箱・でんしレンジ）と絵カードを使用する。 ・「さら」「ラーメンばち」は具体物を手で触れる機会を設	☆言葉に合うものを選べたか、

		け、物の名前に見合うも　のを選ぶように促す。	仲間に確認する。
		・順番にパパ役を演じる。 開ける、入れる、閉める、出す	☆声が小さかったり、動きや音が小さかったりする場合は、電子レンジの中身に変化をもたせ、伝わる声の大きさを意識できるようにする。
		・ぼくの気持ちを場面に応じて随時確認する。 びっくり、すごいなあ わくわく　たのしみなど	☆気持ちを表す言葉から選ぶ。
		・教師の支援を受けて覚えた言葉を書く。	
１０：１５	４　学習プリントを書く。	・あける　　しめる ・おむらいす　らーめん	☆出てきた食べ物から好きなものを選んで書く。
１０：３０	５　終わりの挨拶		

６　単元を通した生徒の様子・変容

・絵本の挿絵はＩＣＴを活用し拡大して提示し、衝立を使用して視覚刺激を減らしたことで、挿絵に目を向ける様子が見られた。導入では効果的だったが、慣れてくると視線を向けることが減ってきた。
・視覚（絵カードや写真）、聴覚（歌やパターンの繰り返し）、触覚（電子レンジ、皿、どんぶり）、嗅覚（写真をイメージできる匂い）などを組み合わせて学習を進めた。
・電子レンジの操作に対しては、教師の誘い掛けの言葉を聞くたびに返事をしていたが、ややパターンで声を出しているようにも見られた。学習を積み上げる中で、自分や友達が選んだ食べ物のカードが、電子レンジに入れると大きくなって出てきたり、匂いがしたりするなどの変化がわかるようになってからは、教師の誘いに「はい」と返事をして電子レンジの前に向かったり、友達が電子レンジを操作している様子に目を向けることが増えた。
・二つカードを提示するとすぐに左側のものを選んだり両方選んだりすることが多かったため、食べたいものを選ぶ場面でカードと匂いで選択肢を提示した。嗅覚刺激があることで少し考えてから一つ選ぶＡさんの様子が何度も見られた。
・学習の後半では、教師の促しになかなか言葉が出ないＡさんだが、学習中に突然「すし」と周囲に聞こえる声でつぶやく姿が見られてから、友達や教師の話しを聞いて突然まねて言葉を発することがあった。食べたいものの名前を書く活動では、教師が手を添えるとペンを握って手を動かし「すし」となぞり書きすることができた。

高等部　A組　音楽科　略案

日　時：令和５年９月１３日（水）
時　間：９：３５～１１：２５
場　所：音楽室１
指導者：Ｔ１星川　真由美

１　単元名「リズムの違いを感じて表現しよう」

２　本時の目標（対象生徒）
（１）簡単なリズムや音楽を聞いて、歩いたり体を動かしたりすることができる。（知・技）
（２）曲想の違いに気付き、歩くスピードを変えたり、楽器を鳴らすところと休むところを区別したりすることができる。（思・判・表等）
（３）仲間と一緒に活動しようとしたり、リズムを合わせようとしたりする。（学・人等）

３　単元での生徒の実態

対象生徒	単元での実態（予想される姿・課題等）	期待される主体的に活動する姿
Ａ・Ａ	・「たてとくばやし」など軽快なテンポの曲が聞こえると笑顔で体を上下に揺らし、テンポがゆっくりの曲になると、テンポに合わせてゆっくり体を動かすことができる。 ・打楽器のバチやマラカスを持って、体全体でリズムを取りながら楽器を鳴らすことができる。鈴の音を好む。 ・教師以外の「誰かと一緒に活動する」ということについて、少しずつ意識できるようになってきた。	☆笑顔で、手も動かしながら歩き出したり体をゆらしたりする。 ☆音楽に合わせて自分から楽器を鳴らす。 ☆友達の様子を気にしたり、誘ったりする。

４　主体的に活動するための支援と手立ての工夫

・単元構成では、「たてとくばやし」や「花笠音頭」等、本人にとって馴染みのある曲に合わせて身体を動かしたり、鈴のついた紐を持って歩いたりすることで、体で表現することの楽しさが実感できるようにする。
・できるだけ手添え無しでも動けるようなシンプルな活動を心掛け、単元を通じて繰り返し活動することで、見通しをもって主体的に取り組もうとする姿を目指す。
・３名がそれぞれ個別の支援を要する実態であるが、「みんなでいっしょに」の言葉掛けで、お互いを意識したり、動きを合わせようとしたりする姿を目指す。
・肯定的な関わりで、生徒同士が認め合えるような場面を設定する。

５　本時の展開

時間	活動内容	・指導上の留意点	主体的に活動するための支援と手立て
９：３５	１始まりの挨拶 ２授業の流れを知る。	・当番が前に出る。	・お辞儀をするよう支援する。
	「音楽に合せて歩こう」 「3 人でいっしょに鈴をならそう」		
９：４０	３テンポの違う曲を聴いて表現する（歩く） ①　「たてとくばやし」 ②　「オーラリー」 ③　「花笠音頭」 どんな感じ（テンポ）	・一曲聴いた後、選択肢を提示し、自分が感じたイメージと似ているものを選べるようにする。	☆音楽をよく聴いてイメージを思い浮かべられるよう、音楽を繰り返して聴かせる ・イラストと、「はずむかんじ」「ゆったり」等の言葉を組み合わせ、より選択しやす

	の曲か選択肢から選び、音楽に合わせて歩く。	・「みんなで歩きましょう」と伝え、A児を先頭に、ガイドとなる鈴のついた紐を持たせる。 ・H 児は T2 が手を引っ張って促す。 ・車いすの Ｙ 児には並んで走行するよう促す。接近しすぎないよう観察が必要。	くする。 ☆必要に応じて２択で提示するなど、反応を見ながら進める。 ☆テンポの違い等が動きに表れているか観察し、小さな変化を認め、褒める。
１０：１０	４「花笠音頭」に合わせて３人で鈴を鳴らす。 ・座位で教師の合図に合わせて鈴を鳴らす	・「チョイチョイ」「ヤッショーマカショー」の合いの手に気付かせる。 ・「鈴を鳴らす」、「音楽を聴く」の動きを明確に伝える。	・３人でお互いを見ながら鈴を鳴らせるよう、フラフープに鈴をつけたものを楽器とする。
１０：１５	５本時の振り返り	・一人一人の良かったところを伝える。	
１０：２０	６おわりのあいさつ	・移動時間を確保するため、５分前に終了する。	

６　単元を通した生徒の様子・変容

・もともと音楽が流れると体を揺らして楽しむ生徒Ａであったが、本単元を通じて聴いた音楽についてどんな感じがしたかを問うことで、「うきうきする感じ」「ゆったりとした感じ」などのイメージやテンポの違いを感じ取ることができた。音楽のテンポによって歩くスピードが変わったり、音楽に合わせて机でリズムをとったりする姿が見られるようになった。
・以前は動画と共に音楽を流すことが本クラスの生徒（特に生徒Ａ）にとって有効と考えていたが、一旦は動画で曲の導入を行ったとしても、その後は視覚的情報なしで鑑賞や他の活動を行うことで、より曲を聴くことに集中し、イメージを膨らますことができるということが分かった。生徒Ａが曲をいているときの様子がより表情豊かになった。
・「みんなでいっしょに」の言葉掛けで、友達と二人で持った鈴のついたフラフープを、自分から動かそうとする姿が見られた。

高等部重複グループまとめ	対象生徒：A・A
研究メンバー	片山愛子、星川真由美

1　主体的に活動するために行った支援と手立ての工夫

・注視につながるように、ＩＣＴを活用して絵本を拡大して提示した。
・もののイメージしやすくなるように、触る（触覚）、匂いを嗅ぐ（嗅覚）などの場面を設定した。
・興味関心の高いもの（食に関する内容や身体を動かす、リズムなど）を取り入れた。
・選択する場面では、具体物に触れた後に両手に持って選んだものを教師に渡すようにした。
・やりたいことを実現するための学習や様々な人と関わりをもつ学習の機会をできるだけ設けた。
・できるだけ手添えなしでも動けるような活動を心掛け、単元を通じて繰り返し活動することで見通しをもって取り組むことができるようにした。

2　対象生徒の学びがどのように変わったか？

良かった点	課題点
・選択するための情報が多いほど、選ぶまでの間があり、考えている様子が感じられた。（以前は即答するものの、選択肢すべてを選んでいた。） ・他と交わる活動（インタビューなど）には、自分から移動し始める様子が見られた。	・視覚情報のみだと、周囲の動きに気を取られる。 ・周囲の声に反応してまねて発音することが増えてきたが、改まって発音を促すとできない。 ・教師の動きを模倣したり、友達と動きを合わせたりすることがなかなかできない。

3　最終年度「主体的に活動する姿」に向け、工夫していきたい点、生かしていきたい点、試してみたい点

・今後の生活に必要な、教科を超えたつながりのある活動を設定する。
　例）調理実習のために、「食材や用具の名前を知る」「必要な物を買いに行く」「お金のことを知る」等
・生徒自身がやりたいと思えるようになるための体験の積み上げをしていく。
　例）生徒の思い（やってみたい）を実現するまでの過程を体験
　例）人との関わる体験（聴く、調べる、依頼、お礼など）を通し、関わることの楽しさを実感する。
　※生活体験に乏しい実態なので、体験を繰り返すことで初めて「やりたい」という気持ちが湧いてくる。
・双方向のやり取りに有効な、より具体性のある選択肢の提示やハンドサインの活用をしていきたい。
・伝わる実感を持てるよう、様々な伝え方（身振り、メモを渡す、ICT 活用など）を指導していきたい。
・活動内容に応じて自分に合う伝え方を生徒が選択できるようにしていきたい。